

○水稻生育概況

今年の育苗期については日によって気温差が大きく、急に暑くなる日もあったことから一部ではムレ苗や徒長苗、ヤケ苗の発生が見られました。田植期の気温は比較的安定していましたが、強風の日や雨の強い日があり、田植え作業に苦労された方もおられたのではないのでしょうか。

今年の市内の田植えは5月3～6日と12日の2回田植えのピークがありました。田植えについては5月の下旬から下旬にかけてと長期間にわたり作業が行なわれたので、田植時期や圃場の状態等で生育に差がありますので生育に合わせた栽培管理を行なうようにしてください。

★5月～6月の管理ポイントと品質向上対策

適期適正な追肥、水管理、中干し

1、追肥

追肥は、生育中期の稲の栄養状態をよくし、籾数の確保、有効茎歩合の向上を図るための施肥です。基本的に中生品種は最高分げつ期（6月20日頃）に施用しますが、早生品種については、最高分げつ期から幼穂形成期までの期間が短いので、最高分げつ期の10～15日前に施用しましょう。

★追肥施肥のポイント

- ① **適期施肥**・・・分げつ初期から追肥を施用すると過剰分げつになりやすいので注意する。
- ② **適量**・・・気温が高くなると、有機物の分解が進むので水稻の栄養状態を見て施用する。
- ③ **施用後**・・・追肥施用後は、最低5日間は落水はしない。

○追肥施用量、施肥時期（一般高度化成488施用）（10アール）

品 種	移植期	施用量 (kg)	追肥施用時期
コシヒカリ	5 / 上中旬植え	15	6月 5日～10日
キヌヒカリ	5 / 上中旬植え	10	6月 5日～10日
日 本 晴	5 / 5 植え	20	6月20日～25日
秋 の 詩	5 / 5 植え	10	6月20日～25日
滋賀羽二重糯	5 / 5 植え	10	6月20日～25日

※基肥1回タイプの肥料（**楽しよう君**）を使用した場合は、追肥は施用しないで下さい。

ここがポイント！

基肥時にケイ酸加里プレミア34が施肥できていない場合は追肥時に施肥しましょう。倒伏防止、受光態勢の改善、弱光下（曇天、朝夕）での光合成能の低下が少なくなるなどの効果があります。

2、水管理（分げつ期～中干し）

●水田のワキ（ガス）の発生にご注意ください！！

分げつ期の水管理はやや浅水（水深3cm程度）とし、田面を露出させないように保ちましょう。ただ、この時期から未熟有機物の分解が始まるので、土壌の還元が進みガスが発生し根に障害（下葉の黄化、分げつが進まないなど）を与えることがあります。還元障害が見られる場合は、自然減水により軽く干しガスを抜いてください。※ガス発生度合は表1を確認してください

要チェック！！

レンゲや野菜を鋤き込んだ直後に入水し田植えを行った場合は有機物が一気に分解し土壌が酸欠の還元状態に陥り、ガスが発生し生育障害を起こす恐れがあるので特に注意してください。

表1 分げつ初期から中期のワキの程度と対策

ワキの程度	生育への影響	対策
水田に足を踏み入れても気泡が発生しない。	なし	—
水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生がみられる。	なし	—
水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	水交換
水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する。	根張り不良	水交換
晴天時自然に気泡が発生し、音が聞こえる。	根の伸長阻害・地上部黄化	中干し

●中干し作業

中干し作業は水稻を栽培するうえで非常に重要な作業です。この作業を実践することにより良品質の米が実る稲の体格づくりができます。中干しの目的と効果は以下のとおりです。

★中干しの目的と効果

- ① **水を切ることにより生育を抑え、莖数過多を防ぎます。葉の垂れを防ぎ、光が株内によく入るようにします。また下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。**
- ② **土壌中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分を除去して、根を活性化させます。**
- ③ **機械作業に適した土壌硬度を確保します。この時期に一度しっかり干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、機械作業がスムーズに行えます。**

★中干しの開始時期

中干しの時期は、莖数が目標莖数の8割（15～16本前後）になったら（田植え後30日頃）に開始しましょう。

○中干し開始の目安

1坪当たりの植付株数	中干し開始時の1株当たり莖数
70株	14～15本
60株	17～18本
50株	20～21本
40株	24～25本



「中干し作業の様子」
中干し開始時に溝きりを行うと水の管理が容易になり、収穫間際までの入水が可能となり、品質向上につながります。

★水稻圃場の状態による中干しの程度と期間

莖数	葉色	排水	土質	程度
多い	濃い	悪い	粘土質	田面に1～2cmの割れ目ができるまで干す 細かい割れ目ができるまで干す
少ない	薄い	良い	砂質土	

中干しの期間は7～10日間程度が目安です。

3、雑草防除

中期除草剤は、田植え後の初期除草剤との体系で使用します。また、初中期1回処理剤による除草を行ったが、雑草が残った場合は中期除草剤の施用が可能です。中期除草剤は散布期間が短いため時期を逃さないように施用しましょう。また、中期除草剤は高温時に使用すると薬害が出やすいので、気温の上昇が予想される日の散布はできるだけ避けるようにしましょう。

	農薬名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量	使用方法	使用回数
中期	サンパンチ 1キロ粒剤	一年生水田雑草及びマツバ、ホトメ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ アミト・ロ・藻類による表層はく離、キョウスツメノヒエ	移植後15日～ノビエ3.5葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	湛水散布	1回
	アトトリ 1キロ粒剤	ノビエ、ウリカワ、セリ、オモダカ クログワイ、シズイ、コウキヤガラ	移植後20日～ノビエ4葉期まで 但し、収穫45日前まで	1kg	湛水散布	1回
	ザーベックスSM 粒剤 3kg	一年生水田雑草及びマツバ、ホトメ、ウリカワ、ミズカヤツリ、オモダカ	移植後20日～ノビエ2.0葉期まで 但し、移植後30日まで	3kg	湛水散布	1回
後期	ヒエクワン豆粒 250	ノビエ	移植後15日からノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	250g	湛水散布	1回
	ワイドパワー粒剤 3kg	水田1年生雑草、及びマツバ、ホトメ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、ヒルムシロ	移植後20日からノビエ5葉期 但し、収穫60日前まで	3kg	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	バサグラン粒剤 (水田雑草)	水田1年生雑草(イネ科を除く)、マツバ、ホトメ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ	移植後15～55日 但し収穫60日前まで	3～4kg	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	クリンチャー 1キロ粒剤 (ヒエ専用)	ノビエ、キョウスツメノヒエ (但し収穫40日前まで)	移植後7日～ノビエ4葉期まで 移植後25日～ノビエ5葉期まで	1kg 1.5kg	湛水散布(ヒエを水に水没させて使用する)	2回以内
クリンチャーパス ME液剤 500ml	一年生水田雑草及びマツバ、ホトメ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、セリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、キョウスツメノヒエ	移植後15日からノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	2本	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内	

※使用時期、使用方法、使用回数は除草剤によって異なりますので注意してください！！

ここがポイント！

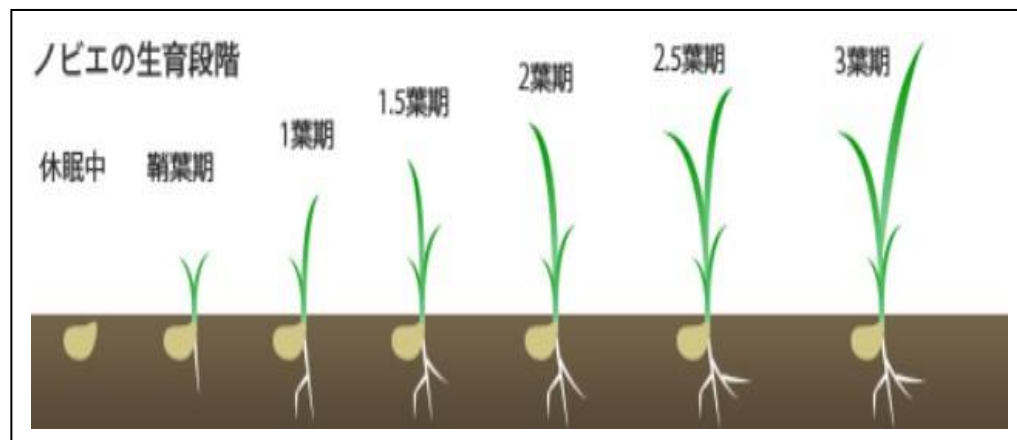
○使用時期と使用方法

雑草は生長が非常に早く、対策を施さなければ水稻にも大きな影響がでできます。除草剤の散布については、雑草が大きく生長してから除草剤を散布しても効果が現れない場合があります。除草剤の散布にあたっては早目の散布を心掛けましょう。また、除草剤によって使用方法が違います。使用方法を誤ると除草剤の効果が半減しますので、使用方法を必ず守るようにしましょう。



○ノビエ〇〇葉期とは

水田雑草の代表的な雑草であるイネ科の雑草をノビエといいます。使用時期に記載されているノビエ〇〇葉期とはノビエの葉齢のことであり、使用時期に記載されている葉期を過ぎると、除草剤の効果が悪くなっていきます。



○除草剤を散布する前に

中期剤、後期剤の除草剤を湛水散布で使用される場合は、水田の水持ちが悪いと効果が悪くなります。散布する前に一度圃場の点検をしましょう。



畦の高さを十分に保ちましょう



畦から漏水するようであれば畦シートを設置しましょう



畦の端が壊れている場合はしっかりと補修をしましょう

※散布後に降雨が予報されている場合は、天気が回復してから散布するようにし、散布後5日間は落水しないようにしましょう

4、病虫害防除

①いもち病

いもち病は菌の拡散によって発生し、根以外の全ての部分を侵す大変影響の大きな病害です。葉いもち病は、6月から7月の梅雨時期に長雨が続きと発生が多くなります。葉色が濃く過繁茂な圃場で、風通しの悪い圃場で発生し易くなります。急性型病斑が発生するとずり込み症状となり、株が枯死することもあります。特に「置き苗」からの発生が多いので注意しましょう。

②紋枯病

前年発生が多かった圃場や、施肥量が多く過繁茂な圃場は特に注意しましょう。

③イネミズゾウムシ

田植え後から成虫が葉の葉脈に沿って食害し、6月上旬以降は、幼虫が根を食害する。堤防や竹やぶなどの周辺は多発します。



いもち病



紋枯病



イネミズゾウムシ

農薬名	適用病害名	使用時期	10a当り使用量	使用方法	使用回数
コラトップ粒剤5 (予防)	葉いもち病 穂いもち病	初発10日前～初発時 出穂30日前～5日前まで	3～4kg	湛水散布	2回以内

5、水稻栽培管理日誌の記入・GAPの実践について

既に田植えまでの管理については、記入いただいているものと思いますが、今後の作業などについても随時記入をお願いします。また、平成30年産米においてもJA出荷予定者(カントリー利用者も含まれます。)は7月中旬頃に、途中まで記入した日誌をご提出いただき、種子更新状況、農薬、肥料などの使用状況を確認した後に、ご返却を予定していますので、ご協力お願いいたします。

